

# 満月の定義

高田 友

抑々満月の定義とは何ぞや。

①「舊暦十五日の月」と答ふるは誤りなり。

新月は必ず舊暦の一日にて、月齢0.0は必ずこの日に該りて、些かの例外もなし。

然れども、月の地球を廻る公轉は、軌道圓にあらざして楕圓なり、かつ時の太陽の位置・距離によりて微妙なる攝動をするあり、必ずしも新月より十五日を経て半周するにはあらざるなり。

さらに、月の公轉周期は29.53日なる端數を伴ふ。舊暦にては、これをほぼ29.5日と見立て、30日の月と29日の月をほぼ交互に配置して調整す。さはさりながら、29.5日にあらざして29.53日なれば、時に應じて30日の月を二箇月連続せしめて、齟齬の生じざらむを圖る。かかる齟齬は他にもさまざま存するによりて、必ずしも十五日の日に満月現はるとは限らず。満月の日は二十年間の推移を見れば、舊暦の十四日・十五日・十六日・十七日に分布すること左の如し。(インターネットより／2000～2019)「十四日」は舊暦毎月十四日の意なり。

十四日	三回 (一・二%)
十五日	九〇回 (三六・四%)
十六日	一一六回 (四七・〇%)
十七日	三八回 (一五・四%)

これを見るのみにても、①の定義の誤りたること瞭然たり。

②「月齢15.00になる瞬間こそ満月なれ」と答ふるも過てり。瞬間的に満月たるの時刻あり、その瞬間を含む日を「満月の日」と理解してあれば、①の定義と比べて卓越するは認めらるれども、なほ正解には程遠し。

凡そ、月齢とは新月の瞬間を0.00と定む。此日は舊暦の一日(「ついたち」といふは「月立ち」の義なり)。すなはち、一日(朔)とは、月齢0.00を含む日の謂ひなり。然らばすなはち、舊暦十五日は月齢14.00を含む日、舊暦十六日は月齢15.00を含む日なり。

かつ、月齡 15.00 を含む十六日に満月の現はるる確率は、右に述べたるが如く五十%に満

たず。満月の出來するは十六日と限らざれば、②の定義も過てり。

③「月の満面完全に輝く瞬間、すなはち満月なり」との解は如何なりや。

換言すれば、二日月・三日月・半月と、月の輝ける部分のやうやう廣がり、つひに百分に達したる時なむ満月なるとの説なり。

月の表面の何%の輝けりやを測定して「輝面率」と言ふ。宜なるかな、輝面率 百分なれば、まさしくこれ満月といふべきにあらずや。

さは、半ば正解、半ば不正解とぞ申すべき。

輝面率 百分となれば必定満月なれど、逆は必ずしも眞ならず。満月なれば輝面率

百分とは斷ずるを得ざるなり。

輝面率 百分なれば、太陽と地球と月は全き一直線に並ぶ。なんと、さは月蝕にあらずや。月蝕、色は赤銅なれど、なほ満月と言ふを得べし。「百分ならば満月」といふは可なり。然れども、此處にてもまた逆は眞ならず。

一般的には満月は、地球を挟みて太陽と相反するの位置に來むとも、上下（南北）に若干の齟齬あれば、その分、輝面率は眞の百分には達せざるなり。

然則、この定義も正鵠を射ると云ふを得ず。

④「地球を挟みて太陽と相反するの位置に來たれる月すなはち満月なり」と言ふは如何。

地球に經度と緯度あるが如く、天には「黄經」と「黄緯」あり。天體の位置を示す數値なり。甚だ非科學的な言ひ方にて斷ずれば、「黄經」は「縦の線」、「黄緯」は「横の線」と言ふを得む。

満月の時には、太陽の黄經と月の黄經は天球上にて眞向ひにあり。黄經の差は 180° なり。時によりて、同時に太陽と月と黄緯等しければ、前述の如く月蝕となる。

然るに、些かなりと上下に外るれば、太陽と月の黄緯は同じ黄經上を縦に辿って搖ぎ、齟齬を生じて同じ數値には落ち著かず。この齟齬あるによりて、輝面率は完全なる百分には達せず。

さはさなりとも、これすなはち満月なり。満月の正しき定義は申せば、④を少し

く修正して、「月と太陽の黄経差の180° になれる瞬間なり」と言ふを得べし。

(令和五年九月二十三日受附)